

平成28年度 西東京市立田無第四中学校 関係者評価表

学校の教育目標						
・すすんで学び、しっかりした学力をつけよう。 ・丈夫な体をつくり、豊かな情操を身につけよう。 ・友達を大切にし、仲間の輪をひろげよう。 ・目標を決め、深く考えて、最後までやりぬこう。						
1 目指す田無四中の姿 (1) 確かな人間関係を基盤とする「開かれた学校」 (2) 生徒と教職員一人一人が生き生きとしている「活力のある学校」 (3) 生徒、教職員が一体となり、本気で取り組む「感動あふれる学校」						
2 目指す四中生の姿 (1) 自ら学び視野を広げ、丈夫な体と豊かな情操を身につけた生徒 (2) 友達を大切にし、礼儀正しく接し、相手を思いやれる生徒 (3) 何ごとにも本気でねばり強く取り組み、最後までやり抜く生徒						
3 教職員の姿 (1) 一人一人を大切にし、礼儀正しく公平に生徒と接する教職員 (2) 教育の専門家として資質向上に心がけ、研修に励む教職員 (3) 教育公務員としての自覚を持ち、信頼される学校をつくる教職員						
	具体的方策	学校自己評価		学校の取り組みおよび改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	学習の「ねらいと振り返り」を明確にし、「山場」を明確にした授業に取り組み、わかったと言える授業を実践する。	4	4	わかりやすい授業を目指した。授業のねらいを明確にして、習得したことを活用し身につける授業に取り組んでいく。	A	生徒アンケートの結果などから、生徒は学習にしっかり取り組んでいる様子が見える。
	教材・教具の工夫やICT機器の積極的活用を通して多様な学びを工夫する。	4	4	教材・教具の工夫に研究授業での成果を生かした。コンピュータ・視聴覚機器の授業への活用をさらにすすめる。	A	タブレットPCの導入もあり、ICTを活用しようとする様子が見える。タブレットPCが多く導入されると良いですね。
	授業の中に、記録・考えさせる・話し合わせる・まとめるなどの活動に取り組みせ、自らが課題解決に取り組む力を育てる。	3	4	記録する、要約する、説明する、論述するなどの活動を意図的に設定した。さらに、生徒の考える時間を増やしている。	A	生徒作文など学年だよりも載っていて、意見をまとめて発表させるなどの取組が見られる。
豊かな心の育成	学校行事や委員会活動、部活動などの活動を通して、学級・学年への所属感や自己有用感をもてるようにする。	4	4	それぞれの活動において、所属感や自己有用感を高めるよう指導した。上級生を手本として取り組んでいる。さらに、活動を活発にさせていく。	A	アンケートから、行事での達成感や自己肯定感が高く、成長している様子が見える。
	修学旅行・職場体験等の体験学習の充実を図り、職業観・勤労観を学ぶとともに、集団の中の個の役割を自覚し共に支え合う意識を育てる。	4	4	慣れない環境の中での体験学習には、自立した心で臨み、共に支えあって取り組み、生徒の印象に強く残った。体験学習の機会を今後も生かしていく。	A	職場体験の事後学習の内容から、生徒の充実感がよくわかる。地域も協力していく。とても評価が高く素晴らしい。
	道徳授業で人権教育に取り組み、互いを尊重する心を育て命の大切さを学ばせる。	4	4	道徳教育、人権尊重教育などを継続して行い道徳的判断力を育成している。道徳授業地区公開講座では外部講師を招聘した。続けて人権課題を取り上げていく。	A	道徳授業地区公開講座などを通して、命の大切さを学ぶ機会があることはとてもよい。道徳の教科化に向けてしっかり取り組み継続してほしい。
個に応じた指導	時間を守る、気持ちのよいあいさつを交わす、言葉づかい、着こなしに気を配るなどのルールやマナーの大切さを理解させ、自律できる力を育成する。	4	4	あいさつ運動、一分前着席など行い、規範意識や生活習慣を日々の生活の中で繰り返し意識づけ指導し、一定の定着が見られる。今後も自分たちで行動できるように指導していく。	A	中学生の下校時に声をかけると良くあいさつしてくれる。校内でもあいさつしてくれる。さらに定着するとよいと思う。あいさつは返してくれるが自らするのは、はにかんでいるのではないかな。
	ふれあい週間や教育相談活動を充実させ、個々の生徒との関係を築き、いじめの防止等生徒の学びを支援する。生徒が自信をもって進路を切り開いていく力を育成する。	4	4	職業調べ、身近な人へのインタビュー、職場体験、上級学校調べ等行い、自らの生き方、意識づけを早めに持てるよう指導している。面談や進路説明会を丁寧にやっていく。	A	職業調べなどの事後学習から、将来の職業観について勉強しているのがよくわかる。継続してほしい。
地域との連携	ボランティア活動を推進し、生徒の自主性を伸ばし、地域を理解し郷土を愛する心を育てる。	4	4	生徒会等を中心にボランティアへの参加呼びかけをしている。ボランティア活動の意義などを伝え、教員からの呼びかけを進めていく。	A	伝承遊びボランティアのバルーンづくり練習を学校会場で行ったが、大勢参加してくれてよかった。校内のボランティア活動をさらに盛んにすると参加しやすいようだ。
	学校公開や学校HP・各種たよりを通して、教育内容や生徒の状況について積極的に発信し、教育活動の理解と協力を得る。	4	4	各種便り、HPの活用により学校の様子をタイムリーに情報発信している。携帯メールの活用により行事の開催等の情報発信も積極的に行っている。今後も続けていく。	A	ホームページやたよりなどで、学校の様子や生徒の活動がよくわかる。今後も続けてほしい。

A：自己評価は適切である。 B：自己評価は適切ではない。 C：評価のための資料が不足している。 D：評価は不可能である。